

富士山宝永噴火（1707年）のメカニズム

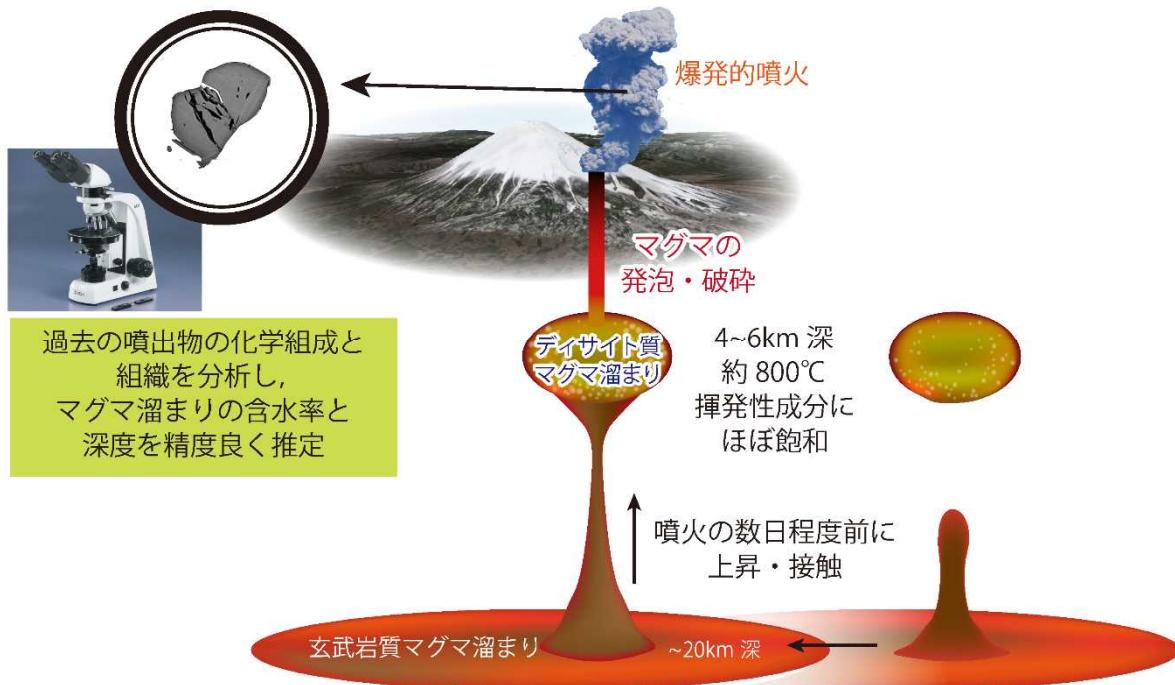


図4 富士山宝永噴火（1707年）噴出物の鉱物組成分析から明らかにされたマグマシステム

深さ4-6kmに揮発性成分にほぼ飽和したディサイト質マグマ溜まりがあり、そこに噴火の数日前に深部から玄武岩質マグマが上昇・接触した結果、ディサイト質マグマの水分が急激に揮発し、爆発的噴火を引き起こした可能性が高い。最近3000年間の噴火でも同様の特徴が見られることから、将来の噴火においても、深部から上昇してきたマグマが浅部マグマと接触する際に何らかの明確な前兆現象が捉えられる可能性がある。